

ラリー三河湾の**主催者・勝田照夫**さんと 息子の**現役ラードライバー・範彦**さんに インタビューしました！



勝田 範彦
(以下、範彦)

1993年 全日本ラリーにフル参戦、2007年以降9度の全日本チャンピオンに。日本を代表するラードライバー。勝田照夫の息子であり、WRC参戦中の勝田貴元の父。

勝田 照夫
(以下、照夫)

1969年 全日本ラリー1位、1975年 英国WRCのRACラリーに日本人初の参戦、1983年 RACラリーで日本人初のクラス1位。現役を退いた後はラリーの普及に尽力。

蒲郡で開催したい

照夫 4～5年前からより良い環境の会場を探していて、たまたま蒲郡を散策している時にパッとイメージが湧いたんですよね。蒲郡には海やサーキットがあり、今までにない新しい会場になると。また、WRCの中で最も長い歴史があるラリーの開催地・モナコにまちの風景が似ていて、何か感じるものがありました。

選手や観客がたくさん来ることで、観光施設や宿泊施設、飲食店など、まちのためにラリーが貢献できたらいいなと思います。

市民の皆さんへメッセージ

2人 ラリーは地域の協力がないとできません。市民の皆さんに楽しんでもらえるようなラリーにしますので、皆さんよろしくをお願いします。

ラリーの魅力

照夫 トヨタ自動車に勤めていた時に、たまたまラリー選手と一緒に仕事をする事になり、その縁でラリー観戦をしたら虜になりました。レースは同じところをぐるぐる走るだけですが、ラリーはそうではありません。未知の世界を走ることができるのがおもしろいところだと思います。

範彦 父親が買い物や旅行など日常的にラリーカーに乗っており、身近な存在だったため、ずっとやってみたいと思っていました。それで、22歳の時にラリーに初挑戦しました。ラリーでは、いろいろな道走ることができます。舗装した道でも舗装の具合によって全然違いますし、道によっていろいろな走り方があります。コーナーの先はどうなっているか行ってみないと分からないというワクワク感もあります。

ラリーを広めたい

照夫 イギリスのラリーに参戦した時に、ラリーが社会貢献をする姿が見えました。そして、レースよりもラリーの方が今後の日本に絶対に必要になると思いました。でも当時の日本は、ラリーの認知度が低くて、自動車文化が遅れていました。だから、ラリーを開催することで広められたらと思ったんですね。

あなたにとってラリーとは

